

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第5巻第1号

(通巻第39号)

2007年1月5日発行

発行人: 病院長 篠崎文彦

## 【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、  
そして地域の人々のために  
信頼される医療を目指します



## 年頭のごあいさつ

病院長 篠崎 文彦

皆様明けましておめでとうございます。  
今年のお正月はいかがお過ごしでしたか。

さて愛媛労災病院は昨年5月に開院50周年を迎えました。今年はまだ新しい気持ちで51年目を迎えたわけですが、これからも末永く地域の皆様方に安心、安全の医療をそしてさらにより良い医療が提供できるよう職員一同頑張っていく所存でございます。

さてわが国は世界一の長寿国といわれるようになり、疾病構造も大きく変わりました。また遺伝子診断や遺伝子治療、移植医療など高度な医療が行われるようになり、国民はその恩恵を受けることができるようになってきました。しかしその一方では、年々国の医療政策はさびしくなっていくような気がします。小泉政権は国の財政や国債費が年々増加し、いわゆる国の借金が増えるということで医療や福祉にも手をつけました。このため老人や障害者、我々にも更なる負担を要求するようになりました。国民が安心して生活できるようにするのが政治家の務

めだと考えますが、逆に弱い立場にある方々に冷たくするような政治は間違っているのではないのでしょうか。

皆様方も家に閉じこもったり寝たきりにならぬよう、病気はあっても日々何とか元気にすごせるよう努力してください。この冬はまだインフルエンザが流行していませんが、「カゼは万病のもと」と言われるくらい次々と病気を引き起こします。カゼをひかぬようまたインフルエンザにかからぬよう、手洗いとうがいをよくするようにお勧めします。また冬に入りノロウイルス感染による嘔吐や下痢症が老人ホームや療養病床のある病院、学校などではやっております。病気が流行しているときは生の魚介類を食べることを避け、手洗いをちゃんとすれば防げます。もしそれが疑われる場合はできるだけ早く病院を受診するようにしてください。2007年が素晴らしい年になることを願っています。

### 愛媛労災病院開院 50 周年記念特別講演会

総務課長 楠本 英行

12 月 16 日、リーガロイヤルホテル新居浜にて、愛媛労災病院開院 50 周年記念特別講演会が開催されました。

年末の土曜日、午後 6 時 30 分からの開演にも関わらず、近隣の医療機関から医師を中心に全体で 100 名ほどの参加者となりました。

竹内正也先生の特別講演は、「日本の医療の現状と私が歩んだ国際的医療支援・交流」のテーマで、現代の日本が抱える医療問題やアフリカ、東アジアの国際医療情勢と交流の様子を豊富なスライドを基にお話しされました。なかでも、インド、中国、フィリピン、ベトナム、カンボジア、パラオ等、それぞれ国ごとの医療情勢、生活事情の話は、医療援助等を改めて考えるうえで大切な教訓が随所に盛り込まれ、大変興味深いものでした。最後に、視野を広く持って「日本の医療をしっかりと考えたい」と結ばれました。

引き続き、邊見公雄先生の特別講演が「生命輝かそう愛媛労災病院・史上最大▲3.16%を乗り越えて」をテーマに、「安全で安心な医療をめざしてー(いち)地方病院のささやかな取り組み」について講演されました。病院代表の中医

協委員として、協議会での丁々発止のやりとりの様子をはじめ、赤穂市民病院院長として 20 年に及ぶ豊富な経験に基づき、医療安全対策いろはかるたを作成するなど、その画期的な取り組みや説明に会場は苦笑や爆笑の連続となりました。邊見先生の率直で斬新な講演に、参加者は時のたつのを忘れて引き込まれてしまいました。

「よい医療を効率的に地域住民とともに！」Exciting medicine & dramatic hospital と結ばれ、2 時間 30 分に及ぶ特別講演会は大盛況のうちに幕をとじました。



### クリスマスコンサート

患者サービス向上委員会

12 月に入って 1 階薬局前メインホールにクリスマスツリーが飾られ、今年は中庭ガラス窓のツリー型電飾の色が追加されて、より一層輝き心暖まる広場になりました。さらに、玄関エスカレーターやガラス一面にスノーアートが飾られより豪華になりました。来年は電飾やスノーアートに負けないようなツリーに変えていきたいと思えます。

12 月 21 日この広場で、労災 O B マンドリンクラブによるクリスマスコンサートが行われ、1 階ホールだけでなく、2 階通路にも多くの観客でいっぱいとなり約 100 名余りの患者様・家族・お見舞いの人に参加していただきました。コンサートでは、マンドリンの優しい音色やハーモニカの懐かしい音に聞入る場面や歌手と一緒に歌うなど全 11 曲、約 1 時間に渡り、楽しいひとときを過ごすことができました。



### 医療安全推進週間

医療安全管理者 高橋 美保

安全な医療サービスの提供は、医療における最優先事項です。厚生労働省では、平成13年度から、11月25日を含む1週間を「医療安全推進週間」と定め、「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動」の推進を図っています。例年、労働者健康福祉機構はこれらの活動の後援団体として参加しており、今年度は医療安全推進週間の共通テーマを「患者・地域住民との情報共有と患者・地域住民の主体的参加の促進」と決めました。当院におきましても、この共通テーマの下、病院全体で様々な取り組みを行いました。

【医療安全コーナーの設置】11月17日から27日まで、北館1階エレベーターホール前に各部門の「医療安全への取り組み」に関するパネルを一齐展示しました。

【市民医療講座】11月22日に、薬剤部の福田主任とリハビリテーション科の渡部主任を講師として市民医療講座を開催しました。テーマは「お薬の安全な使い方について」と「転倒を予防するために」で、講座の後には受講された方から「階段を降りる時の注意」に関する質問もあり関心の高さがうかがえました。

【医療安全パトロール】全職種でパトロール隊を結成し、11月21日に院内パトロールを実施しました。自分の所属部署以外の部署を新鮮な視点でパトロールし、日頃気付かない点を指摘しあうことができました。現在、それぞれの部署が改善に取り組んでいます。

【パネルディスカッション】「事例から学ぶ医療安全」というテーマの下、医師・診療放射線技師・栄養士・検査技師・看護師がそれぞれの部門で事例をきっかけに検討し取り組んだことの発表がありその後、参加者全体でディスカッションしました。当日は、159名の参加があり職員全体で医療安全について意見交換する有意義な場となりました。

このような週間行事をきっかけに医療安全の取り組みについては、職員のみならず多くの皆様を知っていただくことが大切です。医療は患者との協力関係なしには成り立ちません。患者と協働して医療の安全性が向上できるよう今後も病院全体で取り組んでいきたいと思えます。



### 2006年度糖尿病週間行事

内科部長 中井 一彰

毎年11月第2週の月曜から日曜にかけては「全国糖尿病週間」が設けられております。この期間中当院では、糖尿病診療に携わる医療チームが中心となって、地域住民を対象に公開糖尿病セミナーを開催してきました。本年度のテーマは「予備群から生活改善を」でありました。糖尿病の合併症のひとつである動脈硬化性疾患の予防は、糖尿病と診断されてから開始するのでは遅く、予備群の段階から食事療法や運動療法を指導し、体重や血圧のコントロール、脂質代謝異常の是正を図る必要がありますが、検診等で発見される以外、予備群の人々が自ら受診してくることは多くありません。そこで今年度のセミナーは、医療相談や血糖値測定、血管年齢測定といった健康診断を行い、山田耕司先生、杉田安子先生、堀内桂先生の講演を開催して、地域の方々に早期診断および治療の必要性を訴える内容といたしました。11月2日木曜日という平日の開催でしたが、多くの方々に来講して頂き盛況であったと思います。御協力下さった関係各位にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

また当院は、市内6病院(十全、住友別子、県立新居浜、新居浜協立、新居浜山内、当院)の糖尿病診療スタッフで構成する、「新居浜糖尿病地域医療研究会」の一員で



あり、新居浜市民に対する糖尿病の知識普及活動にも取り組んでおります。毎年、市内5つの県立高校に於いて「糖尿病を予防しよう」という講演を行っている他、「全国糖尿病週間」にあわせて大学教授や各界の著名人を講師に招いて健康講座を開催しております。今年は去る11月11日ウィメンズプラザに於いて、枝廣篤昌・財団新居浜病院副院長をお招きして「笑いと健康」という演題で御講演頂きました。講演以外に先生お得意の古典落語も御披露頂き、場内は爆笑の渦となりました。先生の御講演の中にありましたが、「笑う」という行為は健康増進につながるのことで、例えば糖尿病患者の血糖値を低下させる効果が立証されているそうです。ある研究によると、糖尿病患者が医師の講演を聴講した後は血糖値の低下が認められず、むしろ上昇させたのに対し、B&Bの漫才で笑った後は有意に血糖値の低下を認めたとのこと。糖尿病を専門とする私は何とも複雑な気持ちでしたが、来場された方々は、枝廣先生の玄人はだしの落語を聴いて心の底からリラックスし血糖値を下げて帰られたことと思います。枝廣先生は愛媛大学落語研究会に所属されていたそうで、落語を交えた御講演を県内外でされており大変好評を博しているそうです。是非当院でも先生に御講演をお願いしたいものです。

来年以降も糖尿病週間に合わせて、院内外で幾つかの催事を計画しており、たくさんの方々の御協力、御来場をお待ちしております。

## AED セミナー

集中治療部 西山 芳憲

12月9日(土)に第1回目のAED(BLS)セミナーを開催した。内容はアメリカ心臓病学会(AHA)のガイドライン2005に準拠した一次救命処置全般(自動体外式除細動器の使用法を含む)である。医局、看護部、薬剤部、検査部、放射線部、栄養管理、リハビリ、事務局の各部署から総計16名が受講した。オリエンテーションと講義の後、4班に分かれて基本的心肺蘇生処置の実演、AEDの使用法、シミュレーション、実技の評価などを行い、約4時間のセミナーを終えた。今回の受講者が病院の各部署で、AEDの使用法や救命処置の普及を行い、医療安全対策の一助となることを期待します。インストラクターをしていただいた救急コースの13名の看護師と新居浜消防署の12名の救急救命士の皆さんに深く感謝いたします。



## 参加者の声

研修医 高橋 慶子

今回このAEDセミナーに参加し、AED(自動体外式除細動器)の使用法はもちろん、BLS(一次救命処置)の再確認をすることもできました。私は以前何度かBLSの練習を行っていましたが、普段行うことがないためか不確実な部分が多くあることがわかりました。実際意識のない人を発見したときに落ち着いて確実な救命措置を行うためには普段から練習を繰り返し行っておく必要があると思いました。

AEDは公共機関を始め様々な場所に設置されている上、医師でなくとも簡単に除細動を行うことができます。これだけAEDが普及していても使用法がわからなければ意味がありません。まずは医療従事者である私たちが有事のときに正しく対処できるような知識と技術を身に付けておくべきです。そのためにもこういった研修を今後も院内で開催していただければ、と思います。

最後に、西山先生を始め今回指導して下さった救命士や看護師の方々に深く感謝いたします。

## 第2回院内AED講習会(職員向け)開催予定のご案内

下記のとおりAED講習会を行う予定です。詳細は後日お知らせいたします

日:平成19年2月中旬頃の土曜日

時間:午後1時から午後5時予定

場所:大会議室

講習可能数:16名

講習会の参加申込または見学希望のお問い合わせは総務課までお願いいたします。

## 栄養指導業務功労者厚生労働大臣表彰を受賞(お礼)

栄養管理室長 中野 恵子

30有余年、栄養士として微力ながら患者様のためにまた病院の発展のために努力してきました。その結果をこのような形で表彰していただきうれしく思っています。これは、職場の方々や先輩、同僚のご支援の賜物であり深く感謝しております。これからも引き続き頑張っていきたいと思しますので栄養管理室への変わらぬご協力をお願い致します。

## 祝辞

管理栄養士 清水 亮

中野室長、おめでとうございます。栄養士とし勤務された30年以上の間、室長は栄養管理室における適量・適時給食や選択メニューの導入、衛生管理マニュアルの新規作成、栄養指導の強化、栄養サポートチームの設立等、多くの業績に御貢献されました。その間には平成2年における当院

の増改築も行われ、ベルトコンベア方式による盛り付けの導入を含めた、根本的な調理施設の改装がありました。現在、栄養管理室がこのような状態で運営、維持されているのには、室長の御尽力が必要不可欠であり、今回の表彰はそれらが評価されたものと思います。ここに心からのお祝いを申し上げます。



## フルマラソン完走記

医事課 開原 健策

医事課の開原です。去る 11 月 26 日、小豆島で開催された「全国タートル・フルマラソン」に出場してきました。感想は…しんどかったです。

ハーフマラソンを何度か走ったので、ペースを落として 2 倍分走れば良いと考えていたのですが、大会当日は雨に強風とコンディションも悪く味方しませんでした。それでも折り返し 21 キロの時点で 2 時間丁度。

これなら 4 時間半ぐらいかなあと見積もっていたのですが、25 キロ過ぎからは右膝痛に見舞われ痛みとの格闘となりペースもダウンし辛いものとなりました。しかし、寒霞溪の美しい紅葉を鑑賞したり、地元住民の方が差し出してくれる給水に感謝するなどよい思い出も作れました。

大会結果は 5 時間 5 分と、打ち切り時間 (5 時間) を少し過ぎたのですが、ゴール前で待っていてくれた方々に多大な拍手を頂きました。今後も健康のために機会があれば、いろんな大会に出場していきたいと考えています。

追記：この写真はスタート・ゴール地点。撮った頃には撤去作業が始まっていて、大会の盛り上がりをいまいち伝えられない 1 枚になりました (・\_・;) )



## 北 7 階病棟

曾我部 友里

我が北 7 階病棟は、脳神経外科と整形外科の病棟です。その疾患柄、日常生活に援助を要する患者様が多く、日々より良い看護を提供できるよう、忙しさの中にも笑顔を絶やさないように頑張っています。後遺症を残し退院になる方が多いため、退院支援にも力をいれています。スムーズに退院できるよう、受け持ち看護師を中心に、院内他職種・他施設とのカンファレンスを設けるなどして連携を図り、早期から関わるようにしています。患者様だけでなく、家族を含

## 私の仕事

臨床工学部 伊藤 貴洋

皆さん、こんにちは。臨床工学部、伊藤です。臨床工学技士として当院に就職して、あっという間に 9 ヶ月が経ちました。が、しかし、実は愛媛労災病院に通って、もう 7 年近くになります。ご存知の方もおられると思いますが、以前は、某医療機器業者の営業マンとして、お世話になっていました。就職した当初は、「白衣が似合わないね!!」と、よく言われていましたが、そろそろ、見慣れてきた頃でしょうか？

さて、今回は「私の仕事」について紹介します。所属は臨床工学部ですが、普段は殆んど透析室で透析業務を行っています。朝一番に、透析液供給装置が正常に立ち上っているかの確認から始まり、透析のプライミング・設定確認、開始・返血、透析終了後の洗浄・消毒、次回の準備などが一連の透析業務の流れです。透析室では、その合間や透析終了後に、装置のチェックやメンテナンスなども行っています。また、透析室での業務以外にも、ICU で血液浄化業務、院内で人工呼吸器などの医療機器の保守点検業務も行っています。

このように、臨床工学技士は、主に、臨床技術支援 (血液浄化、心カテ補助、人工心肺の操作) と ME 機器管理 (人工呼吸器、輸液・シリンジポンプの保守点検) の業務を行うことができます。院内には多種多様の ME 機器があり、次から次へ新しい機種が開発されてくるため、技士は技術・知識の両面において高い専門性が必要とされます。そのため、日々努力し、安全でより良いチーム医療が提供できるように、臨床工学部の歯車として、がんばっていきたくと考えています。

今後は、臨床工学部として、信頼性と安全性のある医療機器を使用していただけるように、ME 機器の中央管理化に向け取り組んでいる所なので、御協力をお願いします。

それでは、次回は手術室の田中さん、よろしく願います。

めた関わりを大切にしています。今後も、患者様が「ここに入院してよかった。」と思っていただけるよう、パワフルな近藤師長を筆頭に、勝るとも劣らぬスタッフが一丸となり、頑張っていきたいと思えます!!



**祝！ホームページ 10万ヒット**

12月の下旬(推定)、愛媛労災病院のホームページのカウンターが10万を超えました。今後、更新の検討をする必要が出てくるでしょう。

**地域医療連携室より**

皆様、明けましておめでとうございます。昨年4月より地域医療連携業務を担当し、至らない点ばかりで皆様にはご迷惑をおかけしたと思います。今年は昨年の経験・失敗を活かし、より良い地域医療連携業務ができればと考えております。地域医療連携室の活動として9月に、香川大学泌尿器科・寛教授をお招きし地域医療連携勉強会を開催しました。近隣医療機関等から先生、看護師、MSWの方等、多数ご出席して頂き、また院内からも多数の出席がありました。開催にあたりお世話になりました、近隣医療機関並びに協力して下さいました当院のスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

今年もこうした会合を含めて院内外の医療に携わる方々との医療連携を深め、連絡を密に取り合うことができる場・体制を設けたいと思っております。また紹介を頂いている医療機関の先生方へ、病病・病診連携サービス実態調査を実施させて頂きました。ご多忙中にもかかわらず調査にご協力頂きましてありがとうございました。全体評価(有用度)の結果は、昨年の59%から61%へ2ポイント上昇しました。今年では地域医療連携業務の全体評価を上げられるよう、また当院にとって飛躍の年になるよう頑張っておりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(地域医療連携室 橋本)

**患者様におせち料理提供**

栄養管理室

元旦に、少しでも多くの入院患者様にお正月の雰囲気を感じて頂くため、一般食だけでなく、治療食の方にも食事基準に合わせた内容でおせち料理を提供しました。毎年恒例だった数の子やイクラは、ノロウイルスによる食中毒を予防するために使用を控えましたが、給食委託会社シダックスと一緒に心をこめて作りしました。



**総務課からのお知らせ**

**- 人事異動 -**

**1月1日付退職**

- 北6病棟看護師 岡部 美保
- 北6病棟看護師 越智 久代
- 北7病棟看護師 濱田 博美

**新しいスタッフの紹介**

**12月1日付採用**

外来看護師(嘱託) 真鍋 美佐

約10年ぶりに愛媛労災病院でお世話になります。毎日が忙しいですが、早く業務になれ笑顔で頑張っていきたいと思っていますので、宜しくお願いします。



**日本の教育はこれで良いのか**

教育基本法が先の国会で成立した。小中学生のいじめ問題それによる自殺、高校では必須科目の未履修問題、小中学生をはじめとする犯罪の低年齢化など、親や学校が真剣に考えなければならぬ問題が多発している。新しい教育基本法によつてどこがどう良くなるのか殆どの人たちは知らないのではないかと、そしてそれがどのように変わって行くか見守りたい。

高校の必須科目の未履修問題は、関係者があまり責任を感じていないようなふしがある。大学入試を最優先に考えてのか、必須科目ではあるが受験にあまり必要と思われない科目の授業はせずに他の科目に割り振っていたのである。それも学校によつては未履修の科目に単位も出していたところがあるという。詳細は知らないが、最初はある私立高校で発覚して問題となり、全国のすべての高校で調査したところ、約8万人もの高校生が必須科目を履修していないことが明らかとなった。本来なら履修漏れがあれば卒業できないはずであるが、文部科学省は間近に迫った大学入試に対処するため50時間程度の補修授業で単位を出してもよいと通知を出している。しかもこの未履修問題は今に始まったことではなく、数年前から恒常的に行われていたようである。既に大学に入っている者、中にはもう大学も卒業してしまった者もいるという。これは言ってみればあちこちで問題になったデータの改ざんと同じであり、しかもこのことが明らかになつても責任をとつて辞職したり処分を受けたりした人もいないように思う。教育は国の基本であり教育現場はもっと深刻に受け止めるべきであろう。(篠崎文彦)

**編集後記**

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。ところで、皆さんは今年の目標はもうたてましたか?新しい年、2007年を迎え、私は小さな目標をいくつか立てました。これまでは、毎年これといった目標がないまま一年があつという間に終わっていたものですから、今年は少し思い入れが違います。小さな目標でもこつこつと継続しクリアできると、達成感が心が晴れます。目標といっても、大袈裟なものではなく、自分がした

こと、こうなりたいと思うことを、自分に正直に行つていこうと考えています。さて、皆さんは普段何か運動はされていますか?わたしは昨年の夏からジムで週2回ほど水泳をしています。まだ誰も「痩せた?」っていつてくれませんが、見た目にはかなり引き締まってきたと自負しています。三十路を目前にひかえた私を病院のどこかで見かけることがあれば、ぜひ一言宜しくお願いします。(S.O.)

広報紙編集メンバー: 病院長(篠崎文彦), 副院長(友澤尚文), 医局(稲見康司, 佐藤晃), 看護部(西村百合枝, 高橋美保, 泉敦子, 山根千春), 総務課(楠本英行, 山内正), 医事課(橋本直子), 薬剤部(大成政揮), 放射線科(正岡憲治), 検査科(阿南孝志), リハ科(小川進太郎), 栄養管理室(清水亮)